

AI ツール使用に関するガイドライン

1. 趣旨

生成 AI をはじめとする AI ツールの急速な発展に伴い、学術論文の作成および査読の過程において、AI ツールが利用される機会が増加している。本ガイドラインは、日本ベンチャー学会誌『Venture Review』(以下「本誌」という。)の学術的責任と信頼性を確保するため、投稿者および査読者による AI ツールの使用について基本方針を定めるものである。

本ガイドラインにおいて「AI ツール」とは、生成 AI(大規模言語モデル等)のほか、機械翻訳ソフトウェア、文章校正ソフトウェア等を含む、文章、データまたは図表の生成もしくは加工を行うソフトウェアまたはサービスをいう。

2. 基本原則

AI ツールを論文の著者または査読者として扱うことはできない。

AI ツールの使用の有無にかかわらず、論文内容については著者が、査読内容については査読者が、それぞれ最終的な責任を負う。

3. 投稿者に向けて

以下、投稿者による AI ツールの使用に関する規定を定める。

3-1. 許容される使用例

以下のような補助的・限定的な使用は認められる。

- ・文章表現の校正、文法・スペルチェック
- ・翻訳の補助
- ・参考文献の検索補助(ただし、引用情報は必ず原典で確認すること)
- ・プログラムコードの作成・デバッグの補助
- ・図表の作成補助(データの改変を伴わないもの)

3-2. 認められない使用例

以下の使用は、本誌において認められない。

- ・データの生成・捏造・改ざん
- ・実在しない文献や情報の引用
- ・論文の主要部分(著者自身の分析、考察および結論に相当する部分)の AI ツールによる生成
- ・未公表の他者の著作物の無断使用につながる利用

3-3. 著者の最終責任

AI ツールを使用した部分を含め、論文に記載されたすべての内容(事実関係、数値、引用文献、論理展開等)の正確性については、著者が最終的な責任を負う。

3-4. 投稿時の申告

投稿者は、投稿申込みにあたり、本誌所定の「チェックリスト(投稿者用)」に必要事項を記載し、提出するものとする。共著論文の場合は、責任著者が全共著者を代表して確認・申告する。自筆署名は求めない。

4. 査読者に向けて

4-1. 機密保持義務

査読原稿の全部または一部を、外部の生成 AI ツール(ChatGPT、Claude、Gemini 等)に入力・アップロードすることを禁止する。

査読原稿は未公表の学術情報であり、外部の生成 AI ツールへの入力により機密性が侵害されるおそれがあるためである。

4-2. 査読判断の主体性

査読における学術的評価および採否判断は、査読者自身の専門的知見に基づいて行わなければならない。生成 AI に査読そのものを代行させてはならない。

4-3. 疑義が生じた場合の取扱い

査読者は、投稿論文について本ガイドラインに反する疑いを認めた場合、自ら違反の有無を断定せず、審査編集委員会に報告するものとする。

4-4. ガイドラインの確認

査読者は、査読報告書の提出にあたり、本ガイドラインを確認し、これを遵守するものとする。査読者用チェックリストは自己確認のための資料とし、別紙としての提出は求めない。

5. 審査編集委員および編集事務局

4.の定めは、審査編集委員および編集事務局が投稿原稿を取り扱う場合に準用する。採否の決定は、審査編集委員会自身の判断により行うものとし、生成 AI に代行させてはならない。

6. 違反への対応

本ガイドラインに対する重大な違反が判明した場合、審査編集委員会および理事会の判断により、必要な措置を講ずることがある。特に、投稿者による重大な違反が判明した場合には、論文の不受理、掲載決定の取消し、掲載済み論文の撤回(retraction)等の措置を講ずることがある。

措置を決定するにあたっては、あらかじめ当該投稿者または査読者に対し、説明の機会を与えるものとする。

なお、いわゆる AI 検出ツールによる判定結果のみをもって、本ガイドラインへの違反を認定することとはしない。

7. 改定

本ガイドラインは、AI 技術の進展および学術コミュニティにおける議論の動向に応じて、審査編集委員会において随時見直しを行う。

附則

本ガイドラインは 2026 年 8 月 31 日から施行し、施行日以後に投稿された論文に適用する。

以上